

# カトリック 仙台教区報

2006年11月5日 No.172

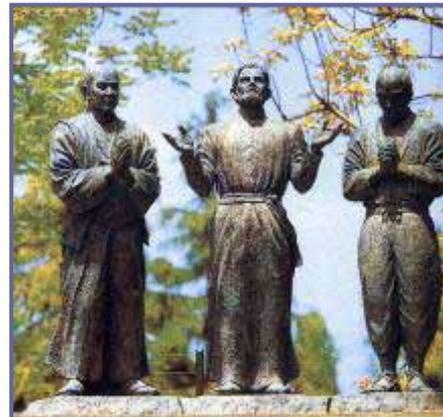
発行  
カトリック仙台司教区  
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12  
Tel (022) 222-7371 Fax(022)222-7378  
発行責任 広報委員会  
URL ; <http://sendai.catholic.jp/>

## 教区の一致をめざして 仙台教区宣教司牧評議会開催

仙台教区宣教司牧評議会は、司教任命による各県代表の司祭4名と信徒8名、修道会代表と司教、司教総代理、教区事務局長が参加する司教諮問機関の一つとして、今回から新たにスタートした。同評議会は、年2回、春分の日と秋分の日に開催されることになっている。

9月23日(秋分の日)、仙台教区センター会議室で第1回目の会議が開催された。

会議の冒頭、平賀司教は、「仙台教区が、一つだということの現れとして、仙台教区に住む信徒、修道者、司祭の代表が一堂に会するこの集まりがあります。」



今朝のミサの福音は、ルカ8章の『種まく人のたとえ』の部分でした。『よい地に落ちたのは、立派なよい心でみ言葉を聞き、よく守り、忍耐して実を結ぶ人たちである』とありますが、忍耐し

た。『よい地に落ちたのは、立派なよい心でみ言葉を聞き、よく守り、忍耐して実を結ぶ人たちである』とありますが、忍耐し

た。『よい地に落ちたのは、立派なよい心でみ言葉を聞き、よく守り、忍耐して実を結ぶ人たちである』とありますが、忍耐し

た。『よい地に落ちたのは、立派なよい心でみ言葉を聞き、よく守り、忍耐して実を結ぶ人たちである』とありますが、忍耐し

た。『よい地に落ちたのは、立派なよい心でみ言葉を聞き、よく守り、忍耐して実を結ぶ人たちである』とありますが、忍耐し

た。『よい地に落ちたのは、立派なよい心でみ言葉を聞き、よく守り、忍耐して実を結ぶ人たちである』とありますが、忍耐し

は移動が困難なため参加者が減っている。近隣教会が隣の県の場合、県を超えての交流は出来にくい。今後、県を超えての交流を考えていく必要がある。この点、青年層は、小教区、教区、県を超えての交流がある。

岩手県は広大であり、交通の便が悪い。大船渡、釜石、遠野の交流の例があるが、近隣といっても車で1〜2時間の距離があり不便で交流しにくい。

盛岡の3教会は共同宣教司牧が行われており、3教会合同委員会を1〜2ヶ月に一回開いている。また、合同墓参や合同巡礼などの合同行事や、合同の子供キャンプなどを実施している。

青森県では信徒・県の連絡協議会が、県の集いの関係で10月に開催されることになっている。

八戸地区は、一人の司祭が二つの教会を担当していることもあり、合同典礼が増え、黙想会は持ち回りで行うなど、一緒に典礼が進んでいる。

小さい小教区から、司祭がいなくなつた時、葬儀などをどうするのか等の問題点もあり、青森地区が核となりながら県内に発信、働きかけをしていかなければならないと考えている。

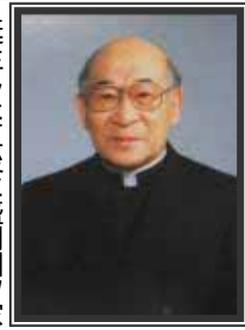
各県、地区ごとの現状や問題点が明らかになった。

### 塩と光

11月2日は、「死者の日」であり、典礼において大切な記念日です。1915年には、教皇ベネディクト15世が、この日を全

教会で祝う死者の記念日に定めました。また、毎回ミサの中で死者のために祈ることは、教会の古い伝統であります。第二奉献文で、司祭は祈ります。「また、復活の希望をもって 眠りについたわたしたちの兄弟と すべての死者を心に留め、あなたの中に入れてください」と。明らかに、復活信仰に基づいて、死者が復活の恵みに与かることができるように祈るのであります。旧約聖書でも次のように説明されています。「もし彼が、戦死者の復活することを期待しなかつたなら、死者のために祈るといふことは、余計なことであり、愚かしい行為であつたらう」(2マカバイ12・44)。「聖徒の交わり」の信仰によって、わたしたちは、生者と死者との確かな連帯関係にあります。ですから、「この世を旅するわたしたちと、キリストの平和のうちに眠った兄弟たちの一致は決して裂かれず、祈りの交換によってさらに強められるのです。」

# ベルナルド 深澤 守三 神父 帰天 司祭生活 65年・6人の司教に仕える



仙台教区司祭 ベルナルド深澤守三  
神父は、2006年10月3日午前3時  
27分、光ヶ丘スペルマン病院ホスピス  
にて帰天。享年90。

誕生した直後に盛岡四ツ家教会に着任。

以来、1996年に引退するまで実に6人の司教のもとで仙台教区司祭として司牧にあたった。また、彫刻家としても非凡な才能を發揮し、仙台市広瀬川河畔にある、殉教者の像をはじめ、多数の作品を残している。

ピエロ 深澤守三師 作



深澤師は、1941年、カナダ・ケベック市にて司祭に叙階され、仙台教区が

通夜は、10月5日午後6時から、元寺小路教会大聖堂において、司祭の家管理者、鷹鷲達衛師の司式で行われた。

鷹鷲師は、説教の中で、深澤神父との出会いや、戦争当時の苦勞話、司祭の家での8年間のエピソードを話された後、「守三神父様は、真つ直ぐな人、信念の人、信仰の人だった。戦前に叙階された最後の司祭が帰天されたこと、一つの時代が終わったという感じがする」と、話された。

葬儀告別式は、6日午前11時から、平賀徹夫司教主司式のもとに、仙台教区司祭31名による共同司式のもとに、約350名が参列して

## 司祭・修道者の召命が増えますように

### 司教 マルチノ 平賀 徹夫

10月に入り、3日には教区司祭のベルナルド深澤守三師が、11日には聖ドミニコ女子修道会のマリア・エンマヌエラ佐々木正子修道女が帰天されました。悲しみの内にも、深い信仰の表れとなった葬儀が、元寺小路教会と北仙台教会でしめやかに営まれました。深澤師は司祭叙階後65年、シスター佐々木は誓願宣立から50年に当たっていました。生涯を神と教会にささげたお二人のご死去にあたり、人間にはこのような生き方も確かに「あり」なのだ、と改めて強く思いました。

信仰の恵みをいただいている私達は、どのような生き方(独身、結婚)や職業を選ぼうとも、それを神からの召命と受け止めながら神の子としての生涯を送るのですが、直接的に神と教会のためにすべてをささげるようにと招かれている人々も確かにいるはず。そして教会はそのような人々をいつも必要としています。

神からのこの招きが実を結ぶために絶対必要なのは、第一にみんなの信仰です。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるように、収穫の主に願いなさい(マタイ9:37-38)」とのご命令がいつも響いています。「主がおっしゃったことは必ず実現する(ルカ1:45)」と信じる信仰を持って真剣に受け止めたいと思います。第二にはささげる心です。「わたしのために命を失う者は、かえってそれを得る(マタイ10:39)」とありますが、これは、若い人たちにも親(家庭)にも向けられた、「わたしのために、何をささげてくれるか?」との呼びかけでしょう。第三は、いま司祭であり修道者である人々が生き生きとしている姿でしょうか。



アトリエにて(2002年撮影)

三浦平三師は説教の中で、「司祭として生涯を全うすることは素晴らしいことです。しかしそれは厳しい道です。自分に打ち勝つてその道を貫き通した時、皆は別れの悲しみを越えて、讃えます。守三神父様は、戦中、戦後の厳しい時代に司祭として働かれた。小教区の主任、幼稚園長として力強く歩み、日本の教会の様々な変化の中にあつて、司祭職の正道を歩んでこられたことは本当に素晴らしい。心から敬意を表したい。」と、深澤師の功績を讃えた。



行われた「写真」。

### 深澤守三神父履歴

- 1916年 5月20日 岩手県盛岡市に生まれる
- 1916年 6月25日 盛岡四ツ家教会にて受洗
- 1941年 6月1日 カナダ・ケベック市にて司祭叙階
- 1941年 盛岡四ツ家教会
- 1942年 盛岡四ツ家教会
- 1943年 1944年 気仙沼教会主任
- 1944年 1949年 会津若松教会主任
- 1949年 1950年 函館元町教会主任
- 1950年 1951年 大河原教会主任
- 1952年 1961年 白石教会主任
- 1961年 1967年 築館教会主任
- 1967年 1977年 塩竈教会主任
- 1977年 1987年 西仙台教会主任
- 1987年 1996年 塩竈教会主任
- 1996年 引退後、司祭の家に居住
- 2006年 10月3日午前3時27分 光ヶ丘スペルマン病院ホスピスにて帰天(享年90)

# 仙台教区の将来に向けて 2006カトリック青森県の集い

「2006カトリック青森県の集い」が、9月10日(日)に八戸市美保野にある八戸大学会館において開催された。この「集い」は、県内の小教区が一堂に会して親睦と分かち合いを通して信仰を深める機会として、3年おきに青森県信徒連絡協議会が主催して開催されている。

このたびの「集い」のテーマは、「仙台教区の将来に向けて」であった。実行委員会では、さしあたり青森県のカトリック小教区が抱える問題や課題を把握した上で、将来について展望することが大切であるとの認識から、「青森県内小教区の現状と将来に向



集計することにした。アンケートの内容は、『現状把握』と『将来に向けて』に分かれ、その大半が現状把握に関するものとなった。『現状把握』は大きく二つの項目に分かれ、「組織としての教会」に関する16の質問と、「交わりとしての教会」に関する5つの質問から成り、一部を除き選択式回答とした。『将来に向けて』は現状をふまえて各小教区が将来に向けてどのような試みをしているか、またしようとしているか、について記述してもらった。これにより、聖堂の老朽化や信徒の高齢化による維持費の減少など、各小教区の様々な悩みや苦勞の一端が目に見える形で明らかになったと思われる。

「集い」当日は、アンケートの結果を説明後、本町教会、十和田教会、鮫町教会の三つの小教区から、「将来に向けて」の取り組みが発表された。都市部と郡部では悩みの質も異なるが、それゆえにそれぞれの状況に応じた信徒活動の具体的な取り組みは興味深い内容であった。その後、平賀徹夫司教による講演があった。親しげな語り口の中に、「祈ること」の大切さをあらためて感じさせてくださる内容であった。昼食後、聖歌の練習をした。今回のミサ聖祭のために、カトリック聖歌集や典礼聖歌集に載っていない新しい聖歌が選ばれたためである。練習した美しい歌詞とメロディーは、今後県内の教会のミサでも歌われることになるだろう。最後に、平賀司教と県内から駆けつけたすべての司祭により、ミサがさげられた。侍者や朗読、奉納や共同祈願などのミサ聖祭の役割分担は、全小教区の信徒が分担し、まさに青森県の集いになさわしいすばらしいミサとなった。

## 典礼の霊性を深める

司教神学顧問 佐々木 博  
「奉献の霊性」

奉獻こそ礼拝の土台であります。「自分の体を神に言はれる聖なる、生ける供え物として献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です」(ローマ12:1)。ですから、礼拝の中心であるミサは、イエス・キリストの十字架上の奉獻を記念する典礼行為であります。ミサにおいて、イエス・キリストの奉獻に合わせて、共同体として自分たち自身をも、天の御父に献げるのです。

このミサの奉獻は、実はわたしたちの日々の生活の奉獻を典礼的に表現しているのです。なぜなら、洗礼によって、キリストの祭司職に与かる者となったので、まさにわたしたちの生活体験のすべてを、天の御父に喜ばれる奉納物として献げることができるからです。「これらのすべての仕事、祈り、使徒的努力、結婚と家庭生活、日々の労苦、心身の休養を聖霊において行い、さらに生活のわずらわしさを忍耐強く耐え忍ぶならば、これらすべてはイエス・キリストを通して神に言はれる霊的供え物となり(1ペトロ2:5)。

感謝の祭儀において主のからだの奉獻と共に、父に敬虔に献げられる。このようにして信徒もまた、どこにおいても聖なる行いをもって神に礼拝をささげる者として、世そのものを神に奉獻するのである」(『教会憲章』34項)。

このように、日々の生活の中で「奉獻の霊性」を豊かに生きることによってこそ、「ミサの霊性」の土台を築き上げていくことができるのです。



集計結果を説明後、本町教会、十和田教会、鮫町教会の三つの小教区から、「将来に向けて」の取り組みが発表された。都市部と郡部では悩みの質も異なるが、それゆえにそれぞれの状況に応じた信徒活動の具体的な取り組みは興味深い内容であった。その後、平賀徹夫司教による講演があった。親しげな語り口の中に、「祈ること」の大切さをあらためて感じさせてくださる内容であった。昼食後、聖歌の練習をした。今回のミサ聖祭のために、カトリック聖歌集や典礼聖歌集に載っていない新しい聖歌が選ばれたためである。練習した美しい歌詞とメロディーは、今後県内の教会のミサでも歌われることになるだろう。最後に、平賀司教と県内から駆けつけたすべての司祭により、ミサがさげられた。侍者や朗読、奉納や共同祈願などのミサ聖祭の役割分担は、全小教区の信徒が分担し、まさに青森県の集いになさわしいすばらしいミサとなった。

(木鎌耕一郎)



# 信仰の喜びを分かち合おう

## 第36回福島県カトリックの集い

「主と共に歩み、信仰の喜びを分かち合おう」をテーマに9月3日(日)会津若松ザベリ才学園の講堂を会場に行われた。

福島県内の信徒・修道者・司祭など約290名が集まった。

今回は、みんなが和気あいあいと楽しめる内容にしたいと、大会に参加した会津若松教

物(アトラクション)と、教会紹介のパネルを作っていた。各教会での準備段階で、互いの交流を深め、おののの教会の理解を深めることも一つのねらいであった。

さらに、午後からは、4教会の方から信仰体験談を聞き

仰の分かち合いをすることが出来た。

教会の将来

を十分に味わうことの出来

た一日となった。

大会に参加した会津若松教

会大橋道子さんから次のよう

な感想文が届いた。

福島県カトリックの集いに参加して

今年では会津地区が当番であった。

さて、プログラムについて、

今回は開会式のすぐ後にアトラクションがある。

アトラクションとは、まじめな話やためになることを話し

合ったりお聞きした後で肩の凝りをほぐしながら楽しむも

のと思っていた。それが最初にあるではないか。私は驚いた。

「大橋さん。出番は4番目だか



ら急いで仕度をして待機して

いてください」と告げられた。

会津磐梯山の盆踊りで先頭

に立つことになっている。私の

夫は小原庄助役で徳利を下げ、

ひよっとこの面をつけた。私は

おかめの面を付けた。いよいよ

出番となり、お囃子がなり始め

手拍子と共に会場が一斉に湧

いた。

踊り子は服装も踊りもまち

を組んでいた。「硫黄島の玉砕」

「満蒙開拓団」「沖縄戦」「本土爆

撃」「原爆被災」等など。

生き地獄の果てに死ぬしか

道のなかつた人。身内との残酷

な別れ。せつかく帰って来ても

己を責め続け、苦しんでいる人

私は見えていて限りなく悲しか

った。

「神様、あまりにも悲しい。

助けて下さい。私に何が出来る

でしょうか」。手を合わせた。

たった今、私にはしなくてはな

らない盆踊りがある。古来、盆

踊りとは「悪霊を踏みつけて、

祖霊を慰める」と聞いている。

私は、この踊りに平和の願い

と祈りを込める。

「みんな思いつきりかぶいて

踊りましょう」。

何で、カトリックの集いに

「会津磐梯山の盆踊り」や「きよ

しのズンドコ節」なのだ。おか

しいではないか。ところが見終

わって感じたことは、何と見事

にカトリックにはユーモアが

あると思った。新しい方向性と

光を感じた。

「アトラクション」の後は打

ち溶け合って和気あいあいの

うちにプログラムは進められ

た。

「信仰体験」では、自分の体験

と重ね合わせ感慨深く聞くこ

とができた。

「ミサ」は、平賀司教さまの

もとでみんなで祈りあう安ら

ぎと幸せをつくづくと感じた。

大波の中に身をゆだね、ゆっ

くりとした時の中で明日への

活力と希望を頂いた一日であ

った。



教会紹介のパネル(須賀川教会)

今年では会津地区が当番であ

「アトラクション」の後は打

「アトラクション」の後は打



子供たちの集い



# 講演要旨

## 現代社会におけるカトリック者の使命

講師 粕谷 甲一神父

混沌とした現代社会のなかで、カトリックの信仰をもつものとして、今の社会をどのように生きるべきか、信徒の使命とは何かを考えようと、粕谷甲一神父(東京教区司祭)の講演会がカトリック正義と平和仙台協議会の主催により、9月23日(土)13時30分より約50名の参加者のもと、カトリック元寺小路教会小聖堂で開催された。



粕谷神父「写真」は、現代先進国といわれている多くの国(その多くはキリスト教国)で合理的な考え方で物事を解釈し、霊的なことを無視する傾向が強

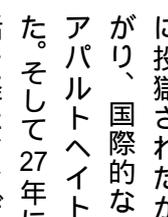
1. 人は不合理、非論理、利己的です。気にすることなく、人を愛しなさい。  
2. あなたが善を行うと、利己的な目的でそれをしたと言われるでしょう。気にすることなく、善を行いなさい。  
3. 目的を達成しようとする、邪魔立てする人に出会うでしょう。気にすることなくやり遂げなさい。  
4. 善いことをしても、おそろしく次の日には忘れられるでしょう。気にすることなく、し続

5. あなたの正直さと誠実さとが、あなたを傷つけるでしょう。  
6. あなたが作り上げたものが、壊されるでしょう。気にすることなく、造り続けなさい。  
7. 助けた相手から、恩知らずの仕打ちを受けるでしょう。気にすることなく助け続けなさい。  
8. あなたの最良のものを、世に与えなさい。蹴り返される

かもしれませんか。でも気にすることなく、最良のものを与え続けなさい。  
マザー・テレサの言葉をそのまま実行するのはとても難しいようにみえる。粕谷神父は、このようなマザー・テレサの行動を支える原動力は、二つの聖体拝領によるものであると説明された。一つは、朝のミサでいただく聖体によるキリストとの一致、第二の聖体拝領は、困窮と悲惨のどん底にいる人をとおしてキリストに出会うことである。見捨てられた人、飢えた人の中にいるというキリストの言葉をそのまま受け止めたマザー・テレサの生き方



そのものである。次に、時のしるしとして二元性と二面性を強調された。二元性の例として、イエスの十字架上の言葉や、「カトリック教会の教え」を取り上げ説明された。イエスは十字架で述べた「主よ、主よ、なんぞ我を見捨て給いしや」、そして「御身にわが魂を委ね奉る」という二つの言葉は、絶望と信頼の相反する内容である。また「カトリック教会の教え」では、第一部で「人間の原罪」を中心に、人間は生まれたとき罪の状態にあることを強調して述べているが、第四部では「人間は生まれたときから神を指向する」ことを述べ、一見矛盾する記述である。このような矛盾を取り上げそこにこだわるのではなく、その中の本質的な部分を見出して受け入れていく態度の重要性を示された。



さらに、時の幅の中で待ち時間の重要性を、アフリカ訪問の体験から述べられた。南アフリカ連邦はオランダの植民地統治から始まりイギリスの支配をとおして、黒人は徹底的に差別されてきた。白人はキリスト教徒として、牛や馬と同じように

人に黒人を酷使しても良いという考えの下で、アパルトヘイトという

人種差別を圧倒的な軍事力で確立してきた。そのなかで、アフリカ人民委員会がネルソン・マンデラ氏「写真」を指導者として非暴力による人種差別反対の運動を始めた。彼はすぐに投獄されたがその運動は広がり、国際的な圧力も高まり、アパルトヘイト法は廃止された。そして27年にわたる投獄生活を経たマンデラ氏が1994年に大統領に選出された。非暴力運動の中心思想は、「神よ、アフリカに祝福を」という歌に見られる。キリストの平和を求めこの歌は、かつての侵略者の偏ったキリスト教を、本来の道に戻すことを目指したともいえる。そして、数百年にわたる黒人の苦しみと数十年にわたる運動で、キリストの平和を

最後に、「神よ、アフリカに祝福を」の歌(これは現在南アフリカ連邦の国歌である)を聞きながら閉会した。(猪岡 光)

# 子育ては祈りに通じる

## 「イエスに学ぼう 子どもへのまなざし」

### 日本カトリック児童施設協会

### 東北ブロック職員研修会

カトリック児童施設で働く

職員達の研修会が、テーマ「イ

エスに学ぼう 子どもへのま

なざし」新約聖書に見るイエ

スの姿」のもと、10月4・5

日の両日、元寺小路教会を会場

に開催された。北海道・東北の

9施設から34人が参加した。

テーマには、カトリックの児

童施設で、子ども達と向き合う

職員達が、カトリックの原点に

帰り、施設の精神を改めて学び

子ども達と共に、神の愛を感じ

ながら、生きる喜びにつなげて



いこうとの願いが込められている。

開会式では、東

北ブロック会長 Sr.

遠藤よし子(仙台

天使園園長)が挨拶し、研修のね

らいを焦点化した。

小聖堂で開会ミサをささげ、

研修の実りを願い、平賀司教が

ら祝福を受けた。

第1講話は、平賀徹夫司教が

「イエスの(子どもたちへの)

まなざし」と題して話された。

聖書の教えを実際の場面でもど

う生かすかが問われているこ

とを再確認。

第2講話は、善き牧者会理事

長 Sr.飯塚澄子が「生活の道しる

べ」祈り」希望を育む糧とし

て」と題して、「子育ては祈

りに通じます」と、体験事例を

織り交ぜながら話された。講演

の中で、自分の心を見つめるワ

ークショップが行われ、参加者

各自が思いがけない自分を発

見することが出来た。

2日間にわたるグループ討

議を経て 職員自身が祈る姿

の大切さ、喜んで働く姿の大切

さについて、子どもたちにカ

トリックの精神にふれさせる

ことの大切さについて、カト

リック児童施設の職員は皆仲

間だと実感が出来たことの喜

びを分かち合つことが出来た。

(開催当番・小百合園長

長田かつよ)

## 米沢教会と

## 北山原殉教地を巡る

## あけの星会秋の巡礼釋奠の会

仙塩地区連合婦人会(あけの

星会・会長 小貫トシ子)の恒例

行事、秋の巡礼と親睦の会が9

月19日(火) 97名が参加して実

施された。

2台のバスに分乗した一行

は、快晴の秋空のもと東北自動

車道を南下、福島飯坂を経て2

時間ほどで米沢に到着。

米沢教会(主任司祭 川又巳

三男神父)は、城下町のたたず

まいを今に残す静かな市中に

あった。

温かい歓迎を受け、聖堂に入

ると、前半分に薄べりを敷き、

100名ほどの座席を確保。受け入

れ準備が整えられていた。短時



間の交歓会の後、あけの星会指

導司祭・佐々木博師の司式で、

ミサが行われた。説教は、「イ

エスはまことのぶどうの木」

(ヨハネ 15:1-17)による内

容と米沢殉教者について熱く

話され、殉教者への思いを深め

た。

ミサ後、米沢教会信徒の森氏

から、殉教史の要旨を聞き、北

山原へ向かった。

今ではきれいな小公園にな

っている刑場跡に立ち、信仰の

故に斬首処刑された甘糟一族

など53人の殉教者を偲び、献花

祈り、聖歌をささげた「写真」。

昼食後、上杉神社周辺を散策。

## 司教日程

買い物済ませた一行は、上山

山形蔵王經由午後5時頃、元

寺小路教会に到着。

所属小教区の枠を超えた交

流と、米沢教会の方々の温かい

歓迎に、キリスト者同志の心の

ふれ合いと信仰共同体の連帯

を強める一日となった。

なお、入院中の米沢教会主任

司祭である川又神父様の日

も早いご快復を祈ってやまな

い。(一本杉教会 佐藤 栄子)

11.3 大船渡海の星幼稚園50周年

5 花巻教会献信

8 磐梯町雪の聖母修徳院

11 ケベック会総議長来訪

12 郡山教会献信

14.16 日韓司教会議(大邱)

18 仙台教区修女連合会研修会

19 いわき教会献信

22 司教男女黙想会

24 特別臨時司教総会(中央協)

26 四ツ家教会献信

12.3 大船渡教会献信

4 仙台教区叙階主祝司祭の祝い

14.15 司教研修会(中央協)

17 気仙沼教会献信

24 主の降誕深夜守

# ペトロ岐部と187殉教者列福へ 列福式は、来年12月・長崎の予定



を「殉教を思い、列福を求める週間」とし、殉教者が現代の教会に残したメッセージの意義を、日本の全教会が一致して深めるため、祈り、黙想するプログラムが用意される。

【特別献金】  
列福式の実施には、多額の費用がかかることから、特別献金をお願いしたい。

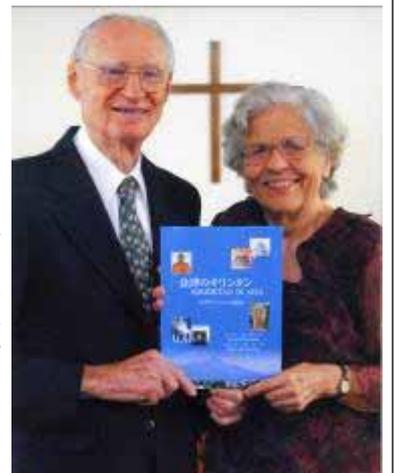
【列福手続きについて】  
ペトロ岐部と187殉教者列福については、教皇庁の歴史委員会と神学委員会の審査を終え、列聖省の、決定を受けて、教皇様が書類に署名されれば決定するという段階に来ている。おそらく今年の降誕祭までには確定する見込み。

【列福式について】  
司教総会において、列福式は、2007年12月、長崎で行うことが決定している。

【列福を求める週間】  
2007年2月4日～11日

平林師は、「迫害の厳しい時代に、信仰を守るために信徒が教会の中で果たした役割は、今日教会も学ぶべきことが多い。今後、列福式準備委員会を立ち上げ、具体的なことが決まっていくなるとは、日本のカトリック信徒が一堂に会する機会が久しぶりなので、この列福式を通して、日本カトリック教会の一致を深めるものとした。また、列聖に向けても調査を進めていきたい」と話された。

教区広報担当者全国会議（10月16日～18日・日本カトリック会館）の席上、殉教者列福調査特別委員会秘書の平林冬樹師から次のような説明があった。



教区広報委員

会宛に一冊の本が届いた。

送り主の住所は、ホノルルとなっている。

## 会津キリシタンの歴史

著者 アーミン・H・クレーラ  
エヴェリン・M・クレーラ

開けてみると、A4判・100ページの冊子に、挨拶状が添えられていた。

それによると、著者のお二人「写真」は、ご夫婦で50年近く福島県会津美里町で、日本キリスト教団の宣教師として働かれ、現在は、引退してハワイに住んでおられるとのこと。

## 会津のキリシタン

1970年に会津若松市文化祭で、「会津文化史展 会津キリシタンの歩み」が開催され、

それ以来会津のキリシタンに興味を持ち、資料を集め、写真を加えて本書を発行したとのこと。

東北のキリシタンについて書かれた書物は少なく、特に英語でかかれたものは殆どないことから、日本語と英語の二ヶ国語で書いたという。

会津にキリシタンが入ってから、迫害、殉教を経て禁教令が解かれキリシタンが復活するまでを、豊富な写真や図版を添えて編纂されている。会津のキリシタン史を知る貴重な一冊である。

発行は、喜多方市の会津農村伝道センター、価格は1,200円。一般の書店には出していないが、聖パウロ書店で入手可能。

## 新刊案内

### 『日常と神とひびく』

著者 柳田敷洋（やなぎた としひろ）  
発行 ドン・ボスコ社・定価 1,200円＋税

本書は、月刊雑誌「カトリック生活」に、「日常に響く霊性を求めて」というタイトルで連載された記事の2年分を加筆修正し、まとめたもの。

著者は、イエズス会司祭、現在修練長の要職にあるかわら、全国各地で霊性の指導にあたりておられる方である。本書は、章に分かれているが、聖書を引用し、自分の体験を話しながら、日常生活の中で神を生きた方法を分かりやすく説明している。

第1章はまず、自分の中に存在する「3つの自分」・「建前の私」・「正直な私」・「真実の私」があることに気づかせ、「真実の私」に生きるようになるためにはどうしたらいいのかと「3つ」を、具体例を引きたがら、「神とひびく私」を自分に分けるように読者を導く。

第2章は、「空（くう）の霊性からイエズスに近づくと」というタイトル、著者はここで、所有がからうばにきれ、エゴが空しくされる深淵を「空」と呼んでいる。私たちに近づいて、「この深淵は、神との出会いの場であるもの」である。

第3章の「体をとおして神に近づくと」では、インド政府公認のヨガ・インストラクターの肩書きを持つ著者が、実際に呼吸による調和などについて、写真付きで説明している。

現在も、連載が続いているが、著者の記事が好評なのは、やさしく生活と祈り・信仰と生活を「教」で生きた方法を示しているからである。



日常で  
神とひびく

柳田敷洋

# 各地から

## 青森県 大湊教会

大湊教会創立50周年と

土井文雄師と鷹嘴達衛師の

司祭叙階50年(金祝)を祝う

9月16日(土)10時から大湊

教会創立50周年と土井文雄師、

鷹嘴達衛師の司祭叙階50周年

を記念するミサが平賀徹夫司

教主司式のもと5人の司祭の

共同司式でささげられました。

県内外から参列した55人の

信徒が歌う荘厳な聖歌が聖堂

に響き渡りました。

ケベック外国宣教会が第一

歩を刻んだのは、1954年5

月、その日から50余年、灯はむ

つ市を中心に下北半島を照ら



し続けています。

教会が満50年を迎えたのは、

二年前の5月でした。溝部司教

様の転任が決まり、驚きのうち

に記念行事を延期し、司教着座

を待つて2年、今年3月に平賀

司教様が誕生したことは私達

にとつても格別なよい知らせ

となりました。

ミサの後、祝賀会場に移り、

ケベック外国宣教会管区長工

メ師、杉山むつ市長、他来賓祝

辞、土井師挨拶、千葉信徒会長

から土井師へ金祝記念を贈呈

し、会食、14時閉会となった。

この日、ミサでもたらされた

聖霊による一致の喜びは、湧き

上がる思い出とともに、大きな

感動となつて心に残りました。

(中村孝一)

## 岩手県 宮古教会

沿岸ブロック交流会

10月1日(日)、穏やかな初秋

の天候に恵まれて、カトリック

宮古教会を会場に、「2006

年岩手県沿岸ブロック交流会

が開催された。今年の「沿岸ブ

ロック」は久慈・宮古・釜石・

遠野・大船渡の5つの教会で、

約60名が参加。会場となった小

百合幼稚園の2階のホールに

は8つのグループに分かれた



席が準備され、道に迷つて開会

時刻ぎりぎり到着した私た

ち大船渡教会の着席を待つて

会が始まった。

開会行事のあと、長い間待ち

焦がれていた私たちの司教、平

賀徹夫司教の講演。テーマは

「教区の活性化について」。

「活性化のための特別な処方

箋はありません。祈りながら活

性化していきましょう。祈る事

が大切です。今ここにいつしよ

にいてくださる神様に、必ず聞

いて下さると信じて祈りまし

よう。教会の集まりを見た人々

が、「いいなあ、行つてみたい

なあ」と思つような共同体を作

つていきましょう」と話された。

講演のあとグループごとに

意見交換、昼食をとりながらの

交流。スイスでの休暇から戻つ

てこられたエンデルレ神父の、

写真を見せて頂きながらのお

みやげ話もとても楽しいひと

ときとなった。聖堂の前で記念

撮影。そしてミサ。再会を誓

い合い、神様のお恵みをいつぱ

い頂いて帰路についた。終始な

ごやかな交流会。会場を準備し

いろいろとお世話して下さいさ

つた宮古教会のみなさんに感謝。

(大船渡教会 菅原 圭一)

## 宮城県 東北新生園

東北新生園で司教ミサと堅信式

築館・米川教会 合同で

新生園で長く療養生活をし

ている患者さん方に司教様が

ら励ましの言葉をかけていた

だければ・・・との願いに快く

応じていただき、10月7日(土)

司教様司式によるミサが実現

しました。当日は強烈な低気圧

の影響で風雨が強い日でした

が、新生園、築館、米川の信者

をはじめ、聖ヨゼフ会、元寺、

北仙台、塩釜のシスターや信者

さん等約30名の皆さんが集ま

り、新生園内教会は久々に賑わ

いました。

また、この日築館と米川の4

名の信者(小野恒子さん、大泉

満雄さん、工藤長子さん、渡辺

恭子さん)が堅信式にあずかり、

司教様から堅信の意義の説明

を聞き、キリスト者としての新

たな出発の力を頂きました。式

終了後二人の方に感想を聞き

ました。大泉さん「聖霊を与え

られ、力強く歩んで生きたいと

思います」。渡辺さん「初めて

洗礼を受けた時を思い出し、新

たな想いを感じました」。

式終了後、遅い昼食を兼ねて

懇親会を開催、出席者の皆さん

のスピーチがあるなど有意義

な時間を過ごすことが出来ま

した。雨の中を自ら車を運転し

て来られた司教様はじめ、遠方

から出席いただいた多くの皆

さんに感謝しながら報告とい

たします。

(米川教会 佐藤 憲一)



# 活動紹介

## 「青年黙想会」グループ

この任意のグループは、2004年に発足しました。当時の

仙台司教・溝部脩司教がその年の新年に黙想会を指導したところ、「こんな黙想会を継続して行いたい」という希望が参加した青年たちから出されました。この要望に応え、同年春、溝部司教が、木村国基神父、ブラザー・フィリップ、



シスター長谷川、それに核となる青年数人を集め、リトリートチームが発足しました。

実際の黙想会が始まったのは、2004年5月21日、22日。衝撃的だったのは、その記念すべき第1回目の黙想会で、溝部司教の高松教区司教としての任命が明かされ、仙台教区の青年たちへの

たと、参加した者みなが感じました。第2の衝撃的なことは、ブラザー・フィリップのカナダ帰国とその急逝でした。

しかし、このようなことにもめげず、青年たちの熱い希望で続けられました。ある時は高松教区の青年たちと交流し、互いに、よい刺激を受け、またそれを、分かち合いました。

2005年8月にワールド・ユース・デイ(WYD)がドイツのケルン市で開催されました。これは、青年黙想会に、非常によい効果を生み出しました。WYDに参加した青年たちとの輪が広がり、仙台だけでなく、札幌、さいたま、東京などの教区の青年たちとも積極的に交わり、連帯意識を強めています。

以来、今日まで、隔月に黙想会を開催しています。毎回参加者は、固定していませんが、10人前後です。多い時には、20人以上になることもありました。各小教区で「私しか青年がいな」と思っていた若者が、黙想会に参加し、教区の中にはこんなに大勢の仲間がいるということを知り、生き返ったという感想をもらった青年もいました。

(Sr.長谷川 昌子)

## 私の気分転換

元寺小路教会 千葉 智行  
山歩き、散歩、庭いじり、体力トレーニング、スポーツ、ボケ防止の音読と書き取り、温泉旅行釣り、映画鑑賞、音楽鑑賞、座禅などを書いた本を準備している。

「この本を書いたら、まず家族はうれしそうに読むわね」と言われ、「これは念持者の今の私には出来なものでない。理想とする気分転換を並べてみただけのこと。」

「よく頑張ったよ。私は何をしようかと悩んでいるのよ。」

「考えてみるよ。好きなことをしている時は、疲れないし、疲れが気にならな。」

「そうです。好きなことをしている

### 時が私の気分転換

先ず、孫のお迎えとお相手。しかしこれは自分のしたい時に出来ないのが残念。保育園に迎えに行く時間が決まっている。頼まれた日に限られる。たとえ週一、一回でも、その楽しみは最上。

次に、聖書を字んた後、お茶とお菓子を前にして、今勉強したことと関係のあることに関わらず、お話しする。

次は、古書が、古書店やデパートで催される古書祭りなどに出かけ、「オッ、こんなものがあった」と古書に出会う。

18円ショップで、「へーこれが100円」なんて感心しながらの買い物。

実は、テレビを見ながらの「おぼろげな」の家族旅行の準備。

## 訃報

スール マリア エンマヌエラ

佐々木 正子 O.P.  
聖ドミニコ女子修道会  
10月11日肺がんのため帰天  
修道誓願50年  
享年77



聖ドミニコ学院小・中・高等学校教師として、宗教・音楽を担当、その後、幼稚園長・小学校長・中・高校副校長。修道会では、修練長、仙台・京都などの院長。ロザリオの聖母会理事長

などを歴任。平成17年から北仙台修道院長。特に音楽の才能に恵まれ、伴奏指導・歌唱指導に力を注いだ。彼女の演奏は聴く人々に深い感銘を与えた。平賀司教様叙階式の聖歌隊の指揮が最後となった。また、彼女は出会う人々を心から愛し、「みことば」の証し人として生涯をささげた。

## 修道院紹介

### 聖ドミニコ女子修道会

#### 中島町修道院

1931年聖ドミニコ修道女会が日本の地、仙台に種まきを始め、今年75年を迎えます。仙台には日本の本部仙台修道院を始



道院を始め、北仙台、茂庭台、青野木、中島町と5つの修道院がそれぞれ

の置かれた場で、必要とされ、たミッションに励んでいます。当中島町修道院のメンバーは8名で、西仙台教会、近隣の方との交わり、病者訪問、市民

活動の人権問題などに積極的に関わり、参加しています。聖ドミニコ学院小学校・幼稚園に一人は専任として、一人はボランティアとして、子どもたちのやわらかい心に、宇宙に飛散している「種子的みことば」を感じ取り、生き生きと生きる喜びを見出すことができます。よう祈りを通して励んでいます。メンバーには高齢のため介護を必要としているシスターもいますが、その祈りと忍耐は、私達を力づけ、励まし支えられています。私達は、多くの人々と交わり、互いに支え合い、分かち合いながら過ごせることを感謝しています。

(Sr.安藤 若)